

1. 基本情報

渡航先国名・地域名 (☆)	Canada, British Columbia
滞在都市 (☆)	Vancouver
留学先大学等名 (☆)	University of British Columbia
留学先での所属学部/研究科 (☆)	Commerce/Sauder Business School
留学先で主に使用した言語	English
渡航先への入国日 (☆)	2018年 9月 1日
渡航先からの出国日 (☆)	2019年 4月 15日
渡航先国での滞在期間 (☆)	7ヶ月15日
同伴者の有無・続柄・年齢等	無
その他	

2. 留学先の大学に関する情報

2. 1 授業に関する情報

履修科目名称	Integrated Marketing Communication
履修期間	2018/09/03~2018/11/29
授業時間 (○分×△回)	90分×26回 (2回×13週)
授業形態 (講義・セミナー)	講義、グループワーク、プレゼンテーション
取得単位数	3単位
履修科目名称	Economics of the Environment
履修期間	2018/09/03~2018/11/29
授業時間 (○分×△回)	90分×26回 (2回×13週)
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3単位
履修科目名称	Introduction to Management Information Systems
履修期間	2018/09/03~2018/11/29
授業時間 (○分×△回)	90分×26回 (2回×13週)
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3単位
履修科目名称	Entrepreneurship
履修期間	2019/01/06~2019/04/08
授業時間 (○分×△回)	90分×26回 (2回×13週)
授業形態 (講義・セミナー)	講義、プレゼンテーション
取得単位数	3単位

大阪大学経済学研究科/経済学部  
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

履修科目名称	Introduction to Marketing
履修期間	2019/01/06~2019/04/08
授業時間 (○分×△回)	90分×26回 (2回×13週)
授業形態 (講義・セミナー)	講義、プレゼンテーション
取得単位数	3単位
履修科目名称	Introduction to Digital Business
履修期間	2019/01/06~2019/04/08
授業時間 (○分×△回)	90分×26回 (2回×13週)
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3単位
履修科目名称	Human Sexuality
履修期間	2019/01/06~2019/04/08
授業時間 (○分×△回)	90分×26回 (2回×13週)
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3単位
履修科目名称	
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	
授業形態 (講義・セミナー)	
取得単位数	
履修科目名称	
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	
授業形態 (講義・セミナー)	
取得単位数	
履修科目名称	
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	
授業形態 (講義・セミナー)	
取得単位数	
留学生 (日本人) の割合	基本的に留学生の割合は高くなかった。多くても1割未満であった。そのため、授業中に日本語を使う機会は全くなく、完全に英語でのコミュニケーションが必要とされた。
成績評価の方法 (試験・課題の数や分量等)	Sauder Business School の授業は主にグループワークとプレゼンテーションが50%であり、残りは出席と試験などで評価されていた。その他の授業に関しては基本的に講義を受け、中間と期末を受ける形での授業が多かった。

履修科目の制限等（あれば）	各セメスターごとに 9~15 単位までしか取れないとの制限があった。
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	
語学に関するサポート（特別授業、チューター、エッセイライティングに関するサポート等）	UBC での語学に関してのサポートは特になし。
授業内での留学生に対するサポート等	留学生に対する待遇やサポートも特になし。
その他	

## 2. 2 福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設（生協・購買・食堂）について	キャンパス内にはいくつかのレストランはもちろん、大型スーパーや病院、美容院、ジムなどの施設が揃っている。
図書館について	メイン図書館として Irving K. Barber Learning Centre がよく使われており、テスト期間では 24 時間開館していた。また、その向かい側にある Walter C. Koerner Library も学生に人気のある、雰囲気の良い図書館である。
保健センター等の有無	University hospital があり、学生であれば無料で診察をもらうことができるが、予約が必要だった。以外にもキャンパス内に個人運営の病院がいくつかあった。
クラブ・サークル等について	数え切れないほどのクラブやサークルが存在する。新学期になるとサークルオリエンテーションが学校中に開かれるため、情報を集めるのは特に難しくなかった。
留学生へのサポート	Go Global とのオフィスで交換留学生は管理される。授業のことやアルバイト、寮のことまで、基本的に親切に色々と案内してくれる。
オリエンテーション等学校主催の行事について	9 月の新学期が始まると早速、オリエンテーションがある。
現地の学生との交流について	もちろん学校の授業でグループワークなどを通じての交流が行われるが、よりプライベートな交流はクラブやサークルを通じて行われる。
他の留学生との交流について	基本的に交換留学生は学内の寮に集まって住んでいるため、他の留学生との出会いは溢れるほどある。私は特に、Exchange Student Club という一番大きな留学生クラブでの交流が最も活発であった。

学外での活動について(地域コミュニティ活動等)	学外での活動に関しては特になかった。基本的に学外でのアルバイトやインターンシップが許されないためなかなかそのような機会がなかったと思う。
長期休暇中の過ごし方	前期のセメスターが終わってから次のセメスターまでの間、約2週間ぐらい冬休みがあった。正規の学生はほとんど実家に戻るため、その時期は実家に戻らない交換留学生と寮やキャンパス内で時間を過ごした。
その他	

### 3. ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類(☆)	Study Permit
ビザの取得手続きについて(申請方法、申請から取得までの所要期間等)(☆)	基本的にカナダはビザが取得しやすい方だと思う。ビザの申請は派遣先の大学から公式な留学承諾書が届いてからではないとできないため、4~5月あたりに始めた。申請はオンラインでの申請となり、要求される書類や申請料を払い、1~2ヶ月ほどでビザの結果が出たと思われる。つまり、長く見積もって半年ほど考えておいたほうがいいと考えられる。
利用航空会社	Air Canada
入国の際の現地空港名	Vancouver International Airport
空港から滞在先への移動について(交通手段や所要時間)	カナダについた際には友人に頼み、空港から寮まで車で運転してもらった。空港から学校まで、車ではおよそ20~30分、バスや電車などの交通機関では1時間程度である。
入国審査について(提示した書類、審査官からの質問等)	質問は特になし。ビザの申請の際に必要な書類は全て手元に用意して持って行ったが、実際提示を要求されたことはなかった。審査官からの質問も特になし。
渡航後の手続き(在留届の提出、外国人登録等)	iMEDというBritish Columbiaの保険の申請。大阪大学経済学部への渡航費の申請。
その他	

### 4. 金銭に関する情報

奨学金の受給	有 無
奨学金名	
奨学金月額受給額(円)	
入国時に用意した金額	
クレジットカードについて(カード会社名・日常の利便性)	クレジットカードは持っていなかった。
留学中に利用した銀行名	Scotia Bank

現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	銀行口座の開設はとても簡単である。開設まで 30 分もかからなかったはず。ただ、事前に予約が必要なため、それだけ注意。
デビットカードの使用について	韓国の VISA の機能があるデビットカード使用。カナダでは現金よりもカードの方が多く使われているため、海外のカードでもなんの問題なく使える。
日本からの送金方法について	基本的には韓国のデビットカードに送金をしてもらい、そのカードを主に使っていた。
1ヶ月の生活費（目安）	10万程度。（寮費抜き）
その他	

## 5. 暮らしに関する情報

### 5. 1 住居に関する情報

住居の種類（学生寮（一人部屋・二人部屋）・アパート等）	UBC Fairview Crescent との寮に住んでいた。前期のセメスターは 6 人部屋で、後期のセメスターでは引越しをし、4 人部屋で過ごしていた。Fairview は比較的、交換留学生が多い雰囲気である。
家賃	8 万円程度/毎月
住居を探した方法・時期	学校のホームページを通じて個人で申請。
荷物の運搬方法 （ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等）	リュック一つと大型キャリーバック二つ。
その他	

### 5. 2 食生活についての情報

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	一番多かったのは寮での自炊。University Village にあるフードコートやスーパー、または Save On Food という学内の大型スーパーで食材を買い、寮で料理をしていた。基本的に寮には学食が付いてないはず…
1ヶ月の食費	個人差はあるが、3~4 万程度なら十分だと思われる。
その他	

### 5. 3 その他日常生活に関する情報

電話について	電話番号の契約はバンクーバーについた初日にできた。Fido という通信会社で契約をし、月々 4 千円程度で電話番号とデータ 4GB が使える。
インターネットについて（Wi-Fi 環境等）	寮や学内の建物では基本的に Wi-Fi が使える。そのため、留学中に電話の契約をしていなかった学生もたまにはいた。

大阪大学経済学研究科/経済学部  
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

コンピューターについて	パソコンは授業でもよく使われるので、持ち運びが簡単なタイプをオススメする。
郵便について	郵便局は University Village にあるものを使用。
交通機関について	学内のブックストアで Upass という交通機関用のカードを買い、登録をしたら UBC への学生費の中に交通機関代が含まれている。バスや電車など、Upass があれば乗り放題。
治安について	基本的にバンクーバーはとても安全な都市だと考える。特に学内や学校周辺は学生がほとんどなため、夜遅くでも特に危険を感じたことはない。ただ、ダウンタウンは夜になると危険な地域があるため、一人で歩き回るのは避けたほうがいだろう。
保険について	最初の3ヶ月は MSP という仮の保険に加入され、それ以降は iMED という British Columbia の保険に加入した。私は日本や韓国から他に保険を加入していなかったため、学校が指定するその二つをちゃんと加入しておいた。
医療機関・薬について	学内に Family Clinic がいくつかあるため、そこで風邪などの診察をもらうことができる。また、ドラッグストアが近くに三つほどあったため、薬を買うのも難しくなかった。
気候と服装について	9月の前半はとても涼しく、天気も良いが、後半から冬の間は雨がほぼ毎日降ってくる。気候は冬でもマイナスにならないが、雨が常に降っているため雨具などの用意をしっかりとしといたほうが良いと思う。天気は3月の半ばから晴れていき、雨もあまり降らない最高の月々が続く。
普段の買い物について	買い物はダウンタウンでよくやっていた。私はダウンジャケットなどの冬物を持って行ってなかったため、冬用のジャケットや普段着などをたまに買っていた。ちなみに、バンクーバーの洋服代は結構高額なほうである。
娯楽・行事について	基本的に学校内のイベントに多く参加していた。特に留学生サークルで開催するイベントには多くの種類があり、その頻度も頻繁であるため自分が興味のあるイベントに参加することをオススメする。
日本語の使用について	日本語の使用は基本的に日本人の学生としか行われない。
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	常備薬（総合風邪薬、冷ピタ、鎮痛剤など）
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	気候に対しての認識とそれに合わせた洋服の準備。

その他	
-----	--

#### 6. 就職活動に関する情報

留学前の就職活動について(セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等)	留学前はボスキヤリの準備として業界研究や自己分析に力を入れた。また、4、5月にはボストンへの空港券や現地でのホテルなどを手配。
留学中の就職活動について(海外からの情報収集、企業へのコンタクト、インターシップ等)	9月あたりから本格的にボスキヤリ用の履歴書を書き始めた。日本語と英語、二種類。また、UBCにいくつかの企業がキャンパスリクルーティングをしに訪問するので、そのような説明会にも積極的に参加した。UBCでの就活情報はJCNとの日本人学生向けの就活サークルで主にもらった。10月にはいくつかの企業との事前面接やウェブテストを終えていた。その結果をもとに11月のボスキヤリで最終面接を受ける形。

#### 7. 語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	英語やカナダでの生活に関する知識を事前に習得。周りの留学生やUBCから阪大へ交換留学きた学生を近くにおき、できる限り英語での会話を心がけた。語学能力試験としてはIELTSをベースに勉強。
留学中の学習方法、工夫したこと等	できる限り英語での生活を心がけたこと。特に、交換留学生の友達と多く交流することでやむ終えず英語を使わないとダメな環境づくりに力を入れた。
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか(主観的な実感や具体的なスコア等)	会話の面では文法が特に伸びたと感じる。書面での勉強ではなく、日常で英語を使えう事によって文法が自然になった。また、学校での授業を受けることから特にwritingが目に見えるほど自然になった。

#### 8. その他

留学して得られたこと	まずは多くのコネクション。アジアだけではなくヨーロッパやカナダ現地の知り合いなどが増えた事によって人脈がとても広く増えた。また、新しい経験から得た知恵もとても多く、物事を考える視野がとても広がったと感じる。最後に、留学を通じての生き残るための強い精神力。新しい環境で知り合いや親のいない状態で一人で独立するため最初は苦労もあったが、徐々に慣れて行き、最終的にはカナダに親近感が湧くほど馴染みこむことができた。
------------	--

留学中に困ったこと	一番困ったことは病院での受診。保険はあるが病院のシステムを全く知らなかったためこのクリニックへどのように訪問したらいいかわからず、困った経験がある。
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	特になし。

## 9. 留学体験談・エッセイ（様式任意）

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を1～2ページ（様式任意）で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室のHPやNewsletterに掲載させていただく可能性があります）。

### 1) 留学を決めた主な理由。

私が留学を決めた最も大きな理由は阪大に交換留学できていた複数の学生と深く交流することによって彼らが日本、そして阪大で豊かな経験をしていく姿に憧れたからである。3年の春、初めて阪大の留学生交流サークル（BSP）で彼らに知り合い、とても気があった上、毎週10人ほどの規模で交流をしていた。みんな別々の国から来た学生であり、デンマーク、ドイツ、フランス、フィンランド、メキシコなど、私が人生で訪問したことのない国からの学生であった。それぞれ母国語が違う中で英語で会話することから英語の偉大さに気づいた。英語が喋れるってこんなにすごいことであり、こんなにコミュニティーが広がることであることを実感し、もっと英語が上手になりたいと考え始めた。さらに、彼らが日本で生活をしてる間、新しい文化にショックを受け、視野を広げていく姿が印象深かった。最初は日本語を全く喋れない、ただの外国人だった彼らが帰る直前には日本語もある程度喋れるようになり、日本の文化も理解し、日本が大好きな状態で悲しながら帰国していく姿を見て今までの環境でなく新しい環境に自分を置くことの重要さを感じた。そしてその年の3年の冬から阪大の交換留学生の制度に応募をし、4年の9月から第一志望であったカナダのUBCで留学を始めた。

### 2) UBCでの履修授業及び感想。

私はほとんどの授業をSauder Business Schoolから受講したため、授業は全般的にグループワークが半分以上を占めしていた。毎回の出席はもちろん、グループのメンバーと毎週ミーティングをするなど、他の学部の授業よりもハードな部分はあった。グループのメンバーの相性にもよって成績が決まってしまうため、非常に高いコミュニケーション力を求められた。また、私の場合は就職活動も被っていたため、Sauder Business Schoolの授業は色々と大変な部分があった。しかし、グループワークと言う新しい形の授業を体験することによって自分の力で問題を解いていく力を身につけることができ、英語でレベルの高いコミュニケーションを取ると言う経験もできたと考える。Sauder Business School以外の授業ではEconomicsの授業を一つ受講していた。



Economics の授業は講義式の授業であり、先生の講義を聞き、中間と期末試験を受けるような、大阪大学と似てる形の授業であった。

3) 楽しかったこと。

私の中で一番楽しかったことはやはり新しい人と会い、新しい経験をしていくことであった。それが可能だったのも UBC のしっかりとした留学生サポートシステムや数多くのサークル・クラブ、また学内イベントではないかと考える。UBC は毎年、数多くの交換留学生を受け入れる学校としてとても有名であり、90%以上が交換留学生である寮も完備しているため、毎日が新しい出会いであった。また、Exchange Student Club の規模がとても大きく、毎週のようにイベントが行われた。学内のイベントをはじめとし、無人島へのキャンピング、Whistler へのスキー旅行、ロッキー山脈へのロードトリップ、アメリカの西海岸へのバスとトリップなど、学生団体とは思えないほどの規模で様々なイベントがあった。学校所属のサークルであったため安心して参加もでき、参加費も学生向けでお手頃だったため、効率よくいろんな体験ができた。また、このようなイベントで出会った友達と寮や学外で交流を深めていったことも貴重な思い出である。特に私が住んでいた寮はその 90%以上が交換留学生で、毎日のように会うことができた。年末年始などの授業がない日には寮に残っている留学生と料理パーティーをしたり、お互いの誕生日会やハローウィン・クリスマスパーティーなどを気軽に開催していた。みんな同じ立場で同じく新しい環境で生活している仲間としてその繋がりはとても強く、深かったと感じる。最後に、私は留学中に就活をしていたため、JCN という UBC の日本人向け就活サークルでも広い人脈を持っていた。そこで UBC の日本人正規性と多く知り合うことで学外の経験を多くさせてもらった。ダウンタウンに連れていってもらったり、美味しいレストランに連れてもらったり、美しいビーチに連れていってもらったりなど、現地の学生でこそ知っているバンクーバーを経験させてもらった。日本に帰った今でもそのとき知り合った友達と連絡を取り合ったりしながら縁を続けていっているため、人生で貴重な出会いだったと感じる。

4) 大変だったこと。

やはり、一番大変だったことは病院へ行くことであった。風邪をひいたり親知らずで歯医者さんに行く際、どこの病院へどのように予約をしていったらいいのかが分からず、何回か苦労した経験がある。また、自分が入っていた保険がどの治療費までカバーし、どこまでが自払いなのかがなかなか知らず、一度、歯医者さんにいったとき、多額の請求をされたことがある。どこの海外でもそうだと思うが、体調を崩した時が最も困るため、体調管理をしっかりとすることができる限り病院へ行かないようにするのが一番だと考えた。

5) 留学を考えている後輩への一言。

私も留学を決心するまでの道のりは長かった。留学の準備と日本での生活の整理、また

海外での定着まで何一つも簡単なことはなかった。しかし、留学を終えた今、思うのは‘それでも行ってよかった。’である。もしかしたら私の場合は留学の途中で就職活動を終えたらからかもしれない。しかし、就職活動のみならず今まで楽に暮らしていた生活範囲から自分を脱げ出し、新しい未知の世界へ自分を彫り込むことはいろんな意味での自己成長を遂げることができたと考える。新しい国へ行って、新しい学校へ通い、新しい友達を作るなど、新しい環境へ自分を馴染ませるためにこれまでの価値観を捨てたり、新しい意見を取り入れたりなど、内面的な変化が最も大きかったと考える。もちろん英語が上手になりたいから留学を決心する人も多くいると思うが、留学の焦点を英語ではなく自己成長や人脈の拡大、そして人生での新しい機会の創出においてみてほしいと考えた。